

地震予知装置“逆ラジオ”と“地震予知サイトゆれくるん” のご案内

<地震は超巨大なエネルギーの発散>

もし人間が大きなビルを横倒しにしようとしたら、たくさんの巨大な重機など、多くの力が必要でしょう。しかし大地震では大きなビルを倒すだけでなく、日本列島の半分以上を揺さぶるような超巨大なエネルギーが発散されます。



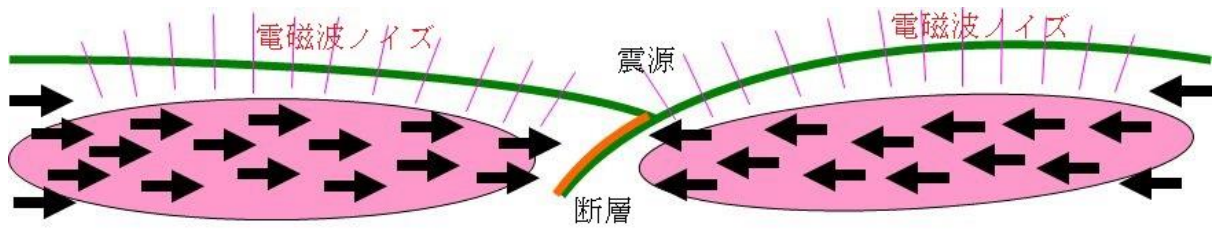
2024年1月1日能登地震 M7.6 で倒れたビル

<まずエネルギーが蓄積される>

こうした地震の超巨大エネルギーは、ある日突然に発散されるのではなく、相当な長期間にわたり、広範囲の地域で蓄積されていくと思われ、そしてエネルギーが、これ以上溜まったままではいられない、というタイミングで地震となって発散されると考えられます。

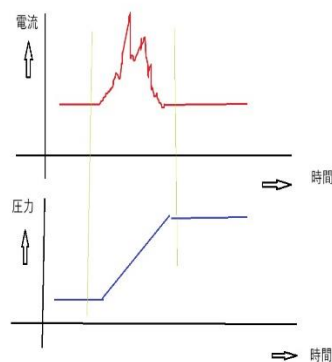
この、①エネルギーが長期間にわたり、広範囲の地域で蓄積されていく状態をなんらかの方法 = センサーで感知し、さらに②エネルギーがこれ以上溜まったままではいられず、もうじき発散される、というタイミングを、①のデータなどから捉えることができれば 悲願の、地震の予知が可能になります。

この地震を引き起こすエネルギーの蓄積は、プレートの動きによって地下深くで、広範囲に渡り、岩盤や岩石に強い力がかかり続ける動き、と考えられます。そして、それによって水晶系の成分を含む岩石が圧迫されたり破壊されたりして、いわゆる圧電効果などで電磁波ノイズが出てくると考えられます。



また、その圧力がどんどん変化している間は電磁波ノイズが出続けますが、プレートの動きに起因する圧力は続けてかかってくるが、あるタイミングからは 地下の岩盤や岩石に段々とエネルギーを吸収できる余地がなくなってくると考えられます。

圧電効果などにより発生する電磁波ノイズは 圧力の変化により発生し、圧力がかかりつづけても、変化がなく一定の状態では電磁波は出ません。地下の圧力を受ける岩盤や岩石に変化する余地が段々に無くなり、圧力の変化が減ってくると電磁波ノイズも、しだいに減少していきます。これが、エネルギーがこれ以上溜まったままではいられず、もうじき発散される、というタイミングになると考えられます。



圧力の変化により電流が流れ電磁波が出る

つまり、①電磁波ノイズが増加し、どんどん増えていく過程はプレートの動きによって地下深くで、広範囲に渡り、岩盤や岩石に強い力がかかり続け、岩石が圧迫されたり破壊されたりして、いわゆる圧電効果などで電磁波が出てくる、エネルギーが蓄積されていく過程になります。

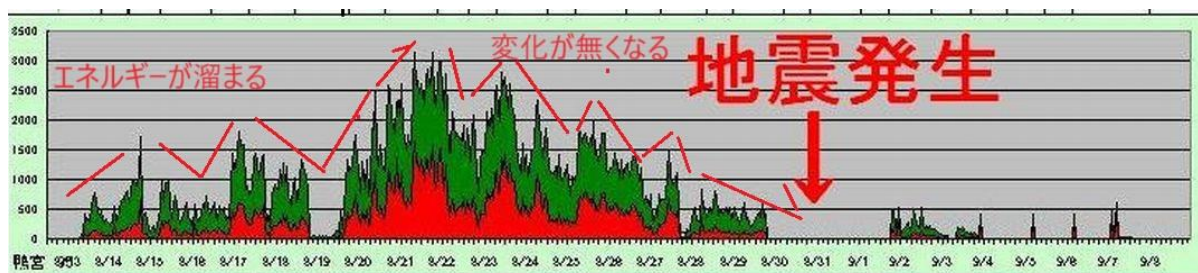
そして②電磁波ノイズが減少し始め、どんどん減っていく過程は 逆にプレートの動きに起因する圧力は続けてかかってくるが、地下の岩盤や岩石に段々とエネルギーを

吸収できる余地がなくなってくる過程、つまりエネルギーがこれ以上溜まったままでは
いられず、もうじき発散される、というタイミングになります。

電磁波ノイズを測定してグラフ化する、逆ラジオのデータはまさにこの理論に合致した
データになっています。

- ① あるときに電磁波ノイズが増加をはじめ、どんどん増えていってピークを迎えるまで
はエネルギーが蓄積されていく時期、
- ② その後データが減少していく時期はエネルギーがこれ以上溜まったままではいられ
ず、もうじき発散される、という時期
になります。

そして、それまで活発に出ていた電磁波が徐々に減少していき最後に、減少しきつ
た時期が、たまったエネルギーがこれ以上蓄積できず地震として発散されます。



電磁波ノイズによる地震予知システムは 地震予知の 3 要素、①どこで、②どのくら
の規模の地震が、③いつ起きるか、には次のように対応します。

- 1, どこで（震源）：複数の観測装置で同時にデータが出た場合、その中央
部が震源になる場合が多いです。しかしM 6 を超えるような大地震の場合、
電磁波ノイズは約 2～300 k m の範囲で出ることから、なるべく多くの観測
点のデータがあることが望ましいです。
- 2, どのくらいの規模の地震か：は 電磁波ノイズの大きさと何日間続いたか？とい
う、グラフの総面積と震源までの距離に比例します。
- 3, いつ起きるか：については電磁波ノイズがどんどん減少していったタイミングに
なります。

そしてもう1つ、地震の予知に必要な、基本的な3原則があります。

- 1, 地震が起きる前に、予知情報を発信すること。
 > 大地震の起きたあとに、実はこんな現象があった、こんな予言があった、
 というケースは多々あるが信用できないものが多い。予知でなく後知。
- 2, その予知情報の根拠となるデータを公開すること。
 > いつ大地震がある、といいながら根拠を示さない、予言や占いの世界。
- 3, そのデータが地震の前兆の現象を捉えている、因果関係があること。
 > 地震発生と因果関係のはっきりしないデータはとても多い、疑似相関。

これらの基本的なルールが地震の予知には必要です。

この逆ラジオを多くの地域に設置して、電磁波データを広く監視することで 大地震を事前に予知することができ、地震の被害に悩む多くの人たちや多くの国々に役立つと考えます。

~~~~~

#### 実際の事例

<2024年8月8日 日向灘 M7.1 の予知の例>

8月8日16時43分ごろ宮崎県沖の日向灘 M7.1 最大震度6弱の大地震が発生しました。この地震は、ゆれくるんの会員むけには、8月7日に配信した、逆ラジオ通信 No.31 W-250807 のトピックスにも載せた通り、【大分県】の大型データをメインに、いままで何度か予想した内容で、地震の規模、震源域、発生日の3要素は、ほぼ合っていました。

<8月7日時点での予測>

- > 地震の規模：M6.5以上
- > 震源域：豊後水道、伊予灘、日向灘など
- > 発生予想日：8月7日より4日間程度

<結果 地震発生>

- > 規模：M7.1
- > 震源：日向灘
- > 発震日：8月8日

## 2024、8/8 日向灘 M7.1 の前兆データ

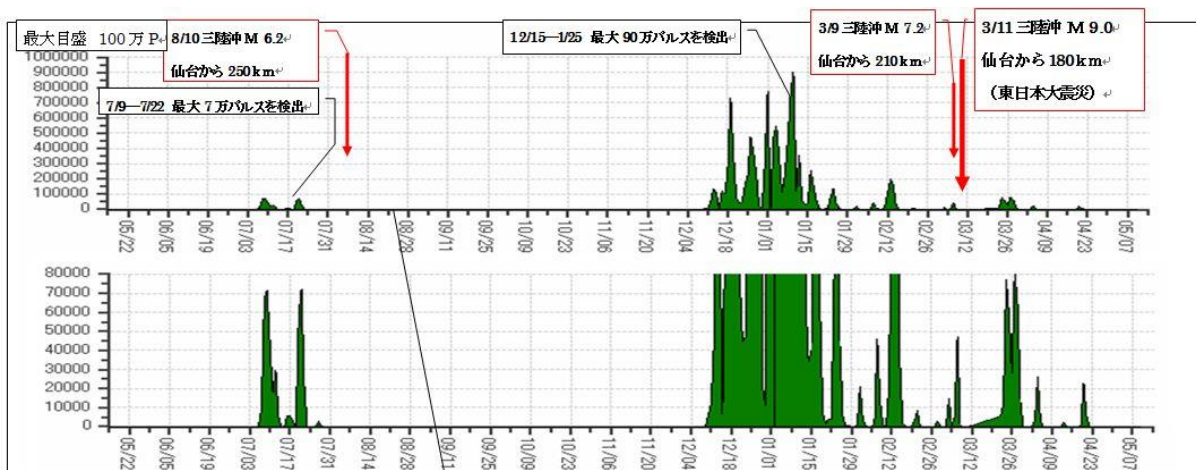


## 地震発生：8/8 日向灘 M7.1 の地震

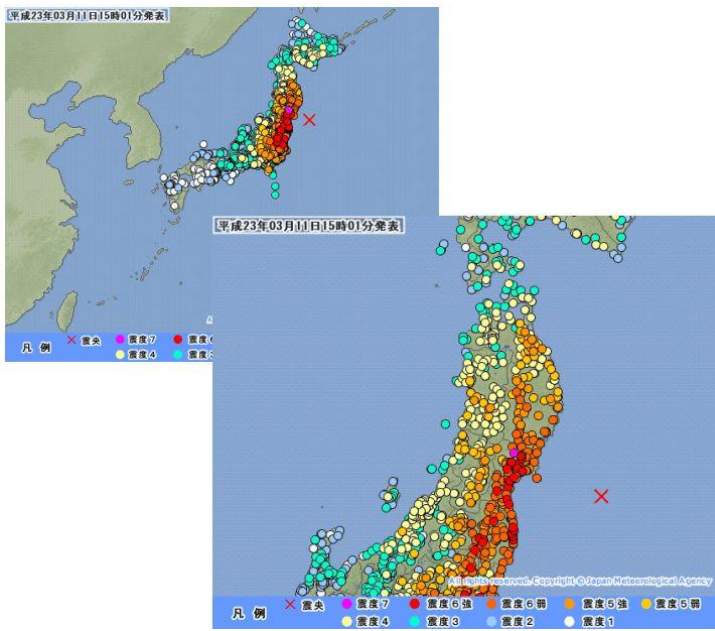


## <その他、過去の大地震の前兆データ>

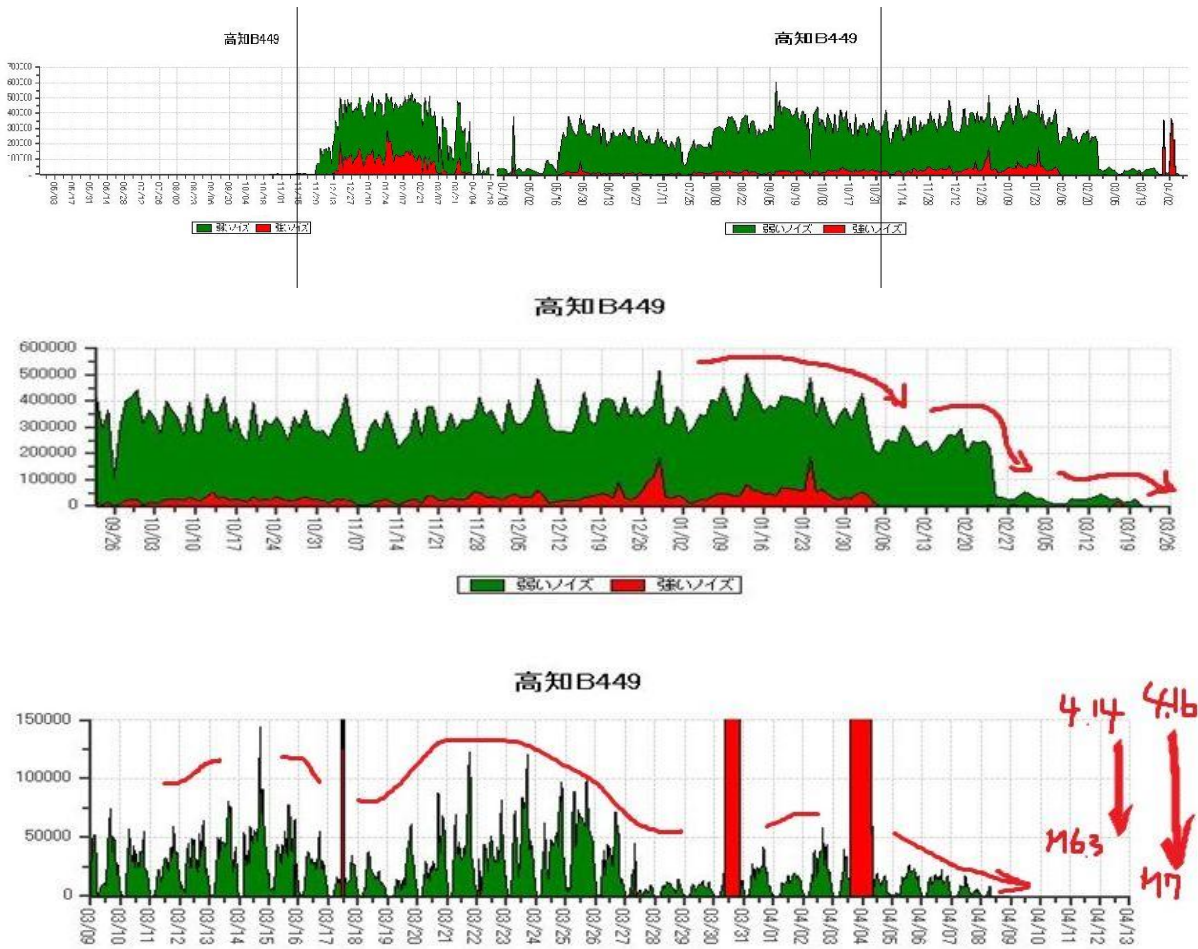
### 2011、3/11 東日本大震災の前兆> 約 3 か月前から仙台に巨大なデータ



# 地震発生：2011, 3/11 東日本大震災



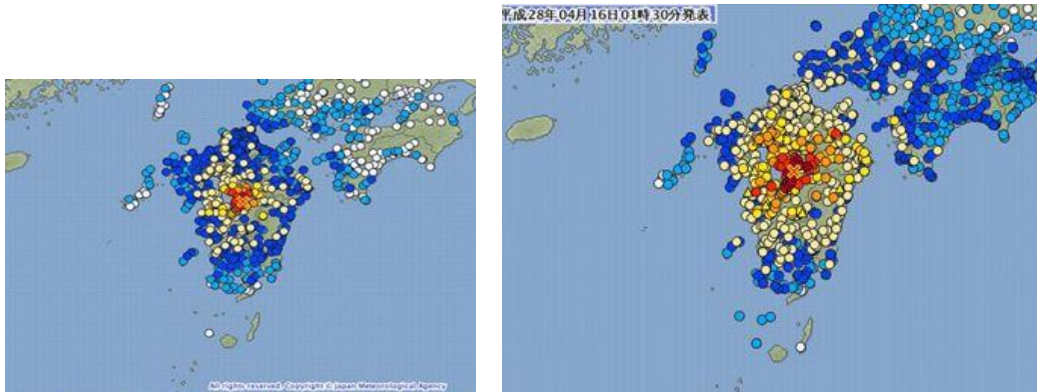
# 2016, 4/16 熊本地震の前兆データ



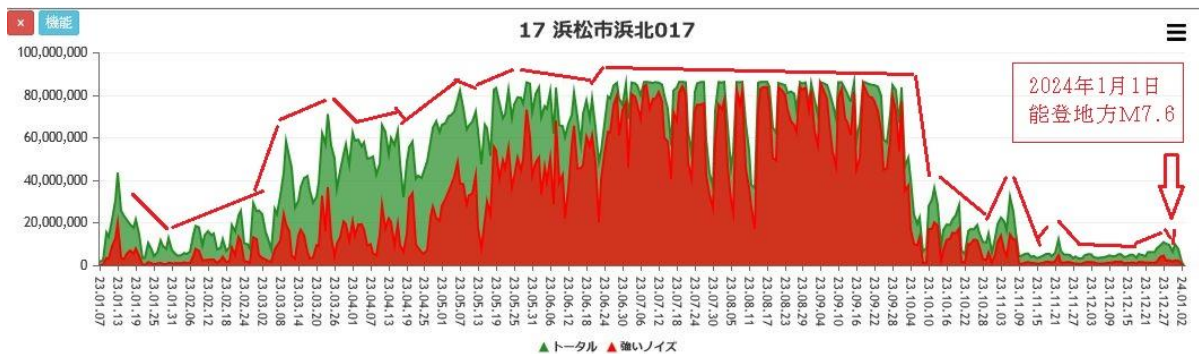
地震発生：2016, 4/16 熊本地震

4/14 M6.3 前震

4/16 M7.3 熊本地震の本震



2024, 1/1 能登半島地震の前兆データ

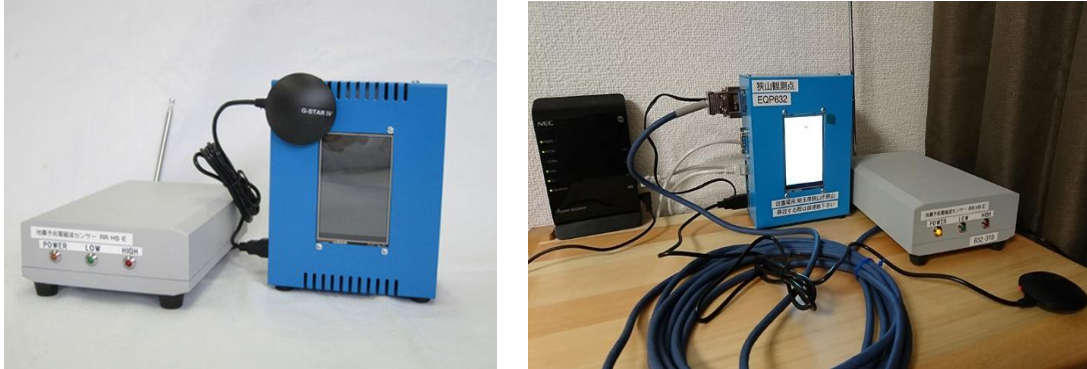


地震発生：2024, 1/1 能登半島地震 M7.6



|         |                        |
|---------|------------------------|
| 発生時刻    | 2024年1月1日 16時10分ごろ     |
| 震源地     | 石川県能登地方 (輪島の東北東30km付近) |
| 最大震度    | 7                      |
| マグニチュード | 7.6                    |
| 深さ      | ごく浅い                   |

## 地震予知装置 “逆ラジオ”のご案内



地震予知装置 “逆ラジオ”と設置例

### <地震の前兆の電磁波ノイズの測定装置>

地震の前には 動物が騒ぐ、深海魚が現れる、地震雲が出る、など、様々な前兆現象が報告されています。これらの前兆現象の多くは、地震の前に地下から出る“電磁波ノイズ”が原因と言われています。この電磁波ノイズは AM ラジオの周波数帯に乗ってきます。本装置は AMラジオの周波数帯に混入する、大気中の電磁波ノイズの測定装置です。

### <AM ラジオの放送波キャンセル機能付き>

AMラジオに付いているノイズ除去機能をはずし、ノイズだけを拾うために放送波をキャンセルする機能になっています。基本的にAMラジオに類似する機構です。

### <全自動で 24 時間測定>

AM ラジオ周波数帯でノイズだけを自動分離検出し、検出したノイズは時刻と数を全て自動記録します。電源（100V）につなげば24時間連続観測でき、LANケーブルに繋がれば、測定したデータを観測センターのサーバーに自動送信し、そのデータをサーバーで自動的にグラフ化して ゆれくるんの観測データとして全国からのデータのグラフと一緒に見ることができます。

大きさ：弁当箱位が2つ、Lanケーブルでネットに接続、100V仕様  
定価 1セット 35万円（税別）